

「はい」「ええ」の使い分けに関する考察

ーテレビ映像を使用したインタビュー調査を通してー

二宮理佳 金山泰子

【要旨】

本稿では、テレビ映像を用いたインタビュー調査を3名の被験者を対象に実施し、「はい」「ええ」の使い分け、および「ええ」の機能について考察を試みた。調査の結果、先行研究および筆者らの考察結果が再確認されると共に、被験者から新たな示唆が得られた。

まず、「はい」には、先行研究で言われているように、「フォーマルで丁寧」、「談話設立・維持・進行」の機能、「ええ」には「同意・共感」の機能があると認識されていることが確認された。さらに筆者らがこれまで考察してきた「主張を込める」、「既知の情報に対する応答」などの「ええ」の機能を認識していると思われる回答が見られた。

また「ええ」の認識には個人差があるということや、「はい」「ええ」どちらかのみを使うとその応答詞の持つ機能がマイナスに作用する結果になってしまうという側面も再確認された。「はい」のみならば「固い」、「楽しさが無い」、「話しにくい」などの被験者のコメントに、それぞれの応答詞の機能がマイナスに現れてしまった様子が見てとれる。

さらに、被験者は3名とも「はい」「ええ」を適宜織り交ぜて使用することが適切で自然だと指摘している。これは、先行研究および筆者らのこれまでの調査結果からは見出されなかった新しい点である。

【キーワード】

「ええ」の機能	テレビ映像を用いたインタビュー	使い分けの判断基準
マイナスの側面	応答表現のバリエーション	

1. はじめに

日本語テキストでは一般的に「はい」「ええ」の違いはフォーマリティと説明されている。また従来の先行研究では、「はい」は認知応答、「ええ」は同意応答という説明にとどまっている。しかしながら筆者らのこれまでの調査（2007、2009）からは、先行研究や日本語教科書の説明では網羅しきれない回答が多く見られ、「はい」「ええ」の使い分けについては、さらなる考察が必要であると思われる。筆者らのこれまでの調査では、「はい」「ええ」の使い分けには発話者の気持ちが関わっていること、また「ええ」という表現には特定の「イメージ」があるということ、また「ええ」の解釈は人によって多様であること等が浮かび上がってきた。

今回の調査では、これまでの考察結果を踏まえつつ、「はい」「ええ」の使い分けの基準や「ええ」の機能をさらに明らかにするため、少数の被験者にインタビューを行った。

インタビューの結果から、被験者に共通するキーワード、また個別に見出されるキーワードを抽出し、先行研究と関連づけて考察を試みた。

2. 先行研究

応答詞の「はい」及び「ええ」は機能面において類似点も多い一方、相違点も認められる。先行研究（北川 1973、日向 1979）では「はい」には「認知」、「ええ」には「同意」の機能があるとする。McGloin（1997）は北川・日向の研究を踏まえた上で、「はい」の機能を「談話・場面を進行させる」、「ええ」の機能を「参加・協調」と説明している。富樫（2002）は、「はい」の機能を「提示された情報に対し、それに関連した半活性化情報が多数呼び出されたことを示す」と定義している。筆者らはこれらの基本的な定義をふまえた上で、「ええ」の機能に着目し分析を進めてきた。

まず、二宮・金山（2006）は「はい」のみ使える文例、「はい」「ええ」が共に使用可能な文例について分析し、「はい」との比較を通して「ええ」の機能について考察した。その結果、「はい」「ええ」の使い分けには対話者が共有する情報の度合いが深く関与していることが分かった。共有する情報の度合いは話者間の関係を決定づけ、親疎・待遇関係へと密接に関わっていると考えられる。また、「ええ」は自己の主張・感情を積極的に表明する応答であり、「ええ」での応答は話者間の情報共有を表明し、相手に対し自らを同等な立場に位置づけると考えられる。故に不適切に「ええ」を使えば親近感・同等感を超えて相手に失礼な印象を与える可能性もあることを指摘した。

さらに金山・二宮(2007)では、学習者が「はい」「ええ」を適切に使い分けるための指導を考察する足がかりを見出すため、アンケート調査を実施し、非母語話者と母語話者の「はい」「ええ」に関する認知・解釈、使用状況を比較した。その調査結果をもとに「ええ」の機能について再考察を試みた結果、「ええ」にはかなりの幅があり、個々の意識によってその使い方・捉え方が異なるということがわかった。つまり、話者と聞き手の間で「ええ」に対する意識やイメージが異なり、話者の意図するところとは違う意味が伝わったり、また不本意な自己表明となる場合もあると考えられる。このような幅広さは、何を基準に「ええ」と「はい」の使い分けをしているかという点に関係していると思われる。つまり、人によって、または状況によって、待遇や丁寧さや改まり度に意識を置くか、相手との関係を意識するか、話者の気持ちの表明を重視するか等々が異なるため、使い方・受け取り方に幅が出てくるのではないかと考察した。

それまでの調査・研究から得た課題をもとに、金山・二宮(2009)は、母語話者を対象に漫画を使用したアンケートを実施し、「はい」「ええ」の機能・効果、使い分けの判断の基準、意識の違いについて調査を行った。その結果、使い分けの要因を「話者の気持ち」とした回答が多く見られ、特に「ええ」の選択理由には、「話者の気持ち」、「話者のイメージ」、「『ええ』が持つイメージ」という回答が多かった。

今回の調査では、以上の結果を踏まえつつ、少数の被験者を対象に映像を用いたインタビューを行い、「はい」「ええ」の使い分け、「ええ」の機能について、さらに考察を進めようと試みた。

3. 調査方法

3-1: 調査の方法

まず3名の被験者にテレビ番組3種類を見てもらい、その後インタビューを行った。番組の中で話者が「はい」「ええ」を使っている箇所、なぜ「はい」「ええ」を使ったのかについて、自由に答えてもらった。また、その場面が「はい」ではなく「ええ」であつたら(あるいは「ええ」ではなく「はい」であつたら)どのように印象が変わるか、なども聞いた。話者(キャスター、アナウンサー、俳優)のイメージや、その話者を知っているか、なども尋ねた。さらに被験者の「ええ」という返答の仕方および「ええ」を使う人に対するイメージも述べてもらった。なお被験者Aに関しては、筆者らが2007年、2009年に行なったアンケートおよびインタビューで同様の質問をしているため、その際の回答を使用した。被験者は以下の3名である。

- ・被験者A：女性、30代、日本語教師、東京出身
- ・被験者B：女性、40代、日本語教師、東京出身
- ・被験者C：女性、30代、日本語教師、山梨出身

質問事項は以下の通りである。

質問1. 小谷キャスター／江崎アナウンサー／玉木氏は会話の中で「はい」「ええ」「うん」を使っています。この人はこの三つの表現を使い分けていると思いますか。

質問2. どのように使い分けていると思いますか。または、「はい」「ええ」「うん」それぞれから、あなたが受ける印象を教えてください。

質問3. もしこの人が「はい」しか使っていなかったら、どのような印象を受けると思いますか。

質問4. もしこの人が「ええ」しか使っていなかったら、どのような印象を受けると思いますか。

質問5. その他：「ええ」／「ええ」を使う人に対して、どんなイメージを持っていますか。

3-2: 調査にテレビ映像を使用した意図・目的

今回の調査では以下のテレビ番組を使用した。

テレビ映像1：「ワールドビジネスサテライト」(2009年5月1日 東京12チャンネル)

ニュース番組の一部で、小谷キャスターが前財務大臣与謝野馨氏をゲストに迎え、日本経済に関する説明を求めている。

テレビ映像2：「今日の料理」(2009年8月 NHK)

江崎アナウンサーが、料理研究家から料理の作り方を聞きながら、レシピを紹介す

る番組である。

テレビ映像 3：「ナイナイ」（2009年8月4日 日本テレビ）

お笑い芸人ナインティナインが俳優の玉木宏をゲストとして迎えて、話を聞き出す番組である。

本論文においてテレビ映像を使用した意図は以下のとおりである。筆者らの2007年のアンケートでは、場面・役割を設定した会話の中で「はい」「ええ」どちらが自然であるか質問した。しかし、文章の説明では回答者が想像で補いながら考えるので、各々のイメージが異なる可能性がある。例えば、「年配の人」、「通りがかりの人」、「先生と学生」などと表記しても、その人物のイメージ（服装、年齢、体型、等の外見）に個人差があるかもしれない。そこで2009年の論文には漫画という媒体を選択した。漫画であれば、より具体的で多くの情報（場面設定・人間関係・心理等）を視覚的に伝えることができる。一方、人物の外見、表情、背景などの情報にもコントロールを加えることが可能になる。つまり、与えられる情報が詳細であればあるほど、個々人が想像により補う部分は少なくなり、被験者が得る情報は均一化されると考えられるのである。その結果、個々人が持つ「はい」「ええ」へのイメージや選択基準が、より明確になることを期待した。今回は、漫画よりもさらに視覚的・音声的信息が与えられるテレビ映像を使用することにより、個々の被験者が得る情報がさらに均一化されることが考えられる。

番組の選択にあたっては、以下の3点を考慮した。まず、ニュース番組のインタビュー、料理番組、バラエティ番組のトーク、という3種類の異なるタイプを選択した。次に、いずれも、聞き手と話し手という役割が設定されているものを選んだ。また被験者の負担を考慮して、会話または場面が5分程度で完結しているものを選んだ。なお、内容の詳細は資料2のスク립トを参照されたい。

4 被験者別のインタビュー結果のキーワード化

被験者の回答の中から、「ええ」「はい」の機能を表すキーワードとなるものを以下の3項目に分類した。被験者三名に共通するキーワードを「三者共通」とし、二名に共通するキーワードを「二者共通」とした。また、一名の被験者のみに見られたキーワードは、「共通項無し」という項目に分類した。表中の「・」は同類のキーワード、「／」は異なる種類のキーワードを示す。

なお、被験者の回答の詳細は資料3を参照されたい。被験者の回答はできるだけ言葉通り忠実に記載した。コメントに見られる微妙な表現や言葉遣いが、被験者の持つ「はい」「ええ」に対するイメージやそれぞれの使用意図を把握する上で重要な鍵となると思われるためである。また、表中の（ ）内は、被験者のコメントで省略された部分を筆者らが補ったものである。

表 1

	はい		ええ	
三者共通	はい	はいのみだったら	ええ	ええのみだったら
	説明・手順・勢い・転換	距離がある・軽さが出ない・楽しさが出ない・堅苦しい・固い パリエーションを意識	カジュアル・フレンドリー・アットホーム・あたたかい／リズム	パリエーションを意識
二者共通	「はい」から入る／緊張・改まった場・相手が大物・フォーマル (B+C) ／きちんと答えをもらう・答えや意見を聞く時 (B+C)	話しにくい (B+C) ／変 (A+C)	「ええ」は同意・共感／スムーズに話してもらう・聞いてますよ (B+C)	区切りがわからない・だらける (A+B)
共通項無し	A キャスターとしての自覚／時間を気にして心ここにあらず／はっきりした「はい」は同意＋ささやく「はい」はあいづち／事務的	A 「はい」「ええ」両方ある方が的確・ものを学んでいる感じ／バカっぽい	A 一家言あり・続きがありそう・既知の情報／プロ意識・自信／実力＋顔＋落ち着いた年齢	A 「はい」「ええ」両方ある方が的確・ものを学んでいる感じ／頭が良くて何でもわかっている／エリート同士の会話・視聴者は蚊帳の外／命令されて動くタイプでない
	B 終わりたい時	B	B 視聴者に向けて＋自分に向けての「ええ」／「ええ」は返答	B 面白みが出ない
	C はじめは大きい声で、そのうち小さい声に。	C どちらかだけだと変・しつこい・話じづらい	C	C 相手がいつまでも話し続けそう／「ええ」は女性語のイメージ どちらかだけだと変・しつこい・話じづらい

* 表内のアルファベットは被験者を表す。

次いで、表1の詳細について、先行研究と関連づけつつ述べる。

4-1:「三者共通」のキーワードについて

「はい」については三者共通して、「説明」、「手順」、「勢い」、「転換」というキーワードが見出された。これらの機能については、先行研究では以下のように説明されている。北川(1977)、日向(1979)は、「はい」を「認知応答」、「ええ」を「同意応答」とした。また日向は「はい」は「どうぞ」や「さあ」に通じる積極的な機能を果たし、談話場面の設立・維持に関与すると述べている。McGloin(1997)は北川・日向の研究を踏まえた上で、「はい」の機能を“making the next move in an interaction”(14)(談話・場面を進行させる)と定義づけている。また富樫(2002)はこのように先行文を持たない「はい」の機能について、「これから情報が現れることの予告的な提示」(141)としている。

一方、「はい」しか使われなかったと仮定した場合には、「距離がある」、「軽さが出ない」、「楽しさが出ない」、「堅苦しい」、「固い」などのキーワードが見出された。一般的に「はい」は改まった応答表現であるとされているが、そのみだと、上記のように「はい」の機能がマイナスに現われてしまうと考えられる。

「ええ」については、三者共通して「カジュアル」、「フレンドリー」、「アットホーム」、「あたたかい」のキーワードが見出された。これらのキーワードから、被験者らが「はい」が改まった応答表現であるのに対し、「ええ」がカジュアルな応答表現であると認識していることがうかがえる。二宮・金山(2006)は、「ええ」の機能について情報の共有が高いほど「ええ」の使用許容度は高まるのではないかと考察した。話者同士が情報を共有することにより話者間の距離が縮まり、親近感・同等感を増す。「ええ」が「はい」よりもくだけた表現であるとい一般的に言われているのは、この情報の共有がもたらす親近感・同等感というところから来ていると思われる。「カジュアル」、「フレンドリー」、「アットホーム」、「あたたかい」のキーワードは、上記の考察と結びつくと言えるのではないか。

また「リズム」というキーワードは、次項(二者共通)の「スムーズに話してもらう」「聞いてますよ」というキーワードと同様の機能をあらわしていると考えられる。北川(1977)は「ええ」は「相手の言ったことに対して『自分もそのように思う』という自分の気持ちを表出する」(66)と指摘しており、日向(1979)はこれを受けて「同意応答」と名付けている。さらに、McGloin(1997)はこれを踏まえて「ええ」の機能を“participant alignment”(14)(参加・協調)と説明している。これらの機能を持つ「ええ」を使うことにより、話しやすくさせ、会話にリズムを与えられられる。そして、それらが上述の「カジュアル」「フレンドリー」「アットホーム」「あたたかい」などのキーワードに結びついたのだと考えられる。

大きく捉えると、被験者三名が共通して持っている認識は以下の三点である。まず「はい」「ええ」の違いをフォーマリティーで捉えているということ、次に「はい」に「談話設立・維持・進行」の機能を見出しているということ、さらに「バリエーションを意識」して応答表現を使うことが適切であると認識しているということである。

4-2:「二者共通」のキーワードについて

「はい」について二人の被験者に共通して見られたコメントは、『はい』から入る、「緊張」、「改まった場」、「相手が大物」、「フォーマル」、「きちんと答えをもらう」、「答えや意見を聞く時」であった。これらは、北川（1977）が指摘する「相手の言ったことを敬意を持って受け止めたという認知応答のサイン」であると考えられる。また二宮・金山（2006）が考察したように、「はい」には「情報の提供者／情報の受け取り手という関係を固定させる機能」（55）がある。これらの「はい」の機能が上記のキーワードに現われていると思われる。

しかしながら「はい」しか使われなかったと仮定した場合には、「話しにくい」、「変」というキーワードが現われたことを考えると、前項と同様に、そのみだと「はい」の機能がマイナスに現われてしまうと考えられる。

「ええ」については、「同意・共感」、「スムーズに話してもらう」、「聞いてますよ」というキーワードが見出された。これは日向（1980）の「同意応答」、「共鳴応答」としての「ええ」である。

しかしながら、「ええ」しか使われなかったと仮定した場合には、「区切りがわからない」「だらける」というキーワードが見られ、これも前項同様、そのみだと「ええ」の機能がマイナスに現われてしまうことが考えられる。またこれは、三者共通の「はい」のキーワードである「説明」、「手順」、「勢い」、「転換」つまり「談話設立・維持・進行」の機能と対応するものである。

大きく捉えると、被験者二名は、「ええ」は「同意・共感」、「はい」は「フォーマル」および「談話設立・維持・進行」という共通の認識を持っている。

4-3:「共通項無し」のキーワードについて

ここでは、共通項でくれなかった各被験者のキーワードについて、被験者別に述べる。これらのキーワードから、個々が持っている「はい」「ええ」の認識の違いが浮かび上がってくるとと思われる。

1) 被験者 A

「はい」についての「キャスターとしての自覚」というキーワードは、小谷キャスターが与謝野前大臣を差し置いて自分が話そうとしていたことに気づき、「はい」を再度使い始めた場面から出てきたものだが、これは情報の受け手としての自分の立場を再度明確にするために使われたと言える。つまり、二宮・金山（2006）が考察した「はい」の「情報の提供者／情報の受け手という関係を固定させる機能」（55）が現われていると考えられる。

「はい」についての「心ここにあらず」というコメントは、北川（1977）の「相手の発話がこちらにはっきりと届いたということを敬意をもって表明する」という機能と関連していると思われる。二宮・金山（2006）はこの北川の定義をもとに、「ええ」が積極的に自己の考え・スタンス・主張を前面に押し出すのに対し、「はい」は自らの意見を伴わない受動的な表現であると考察した。この「心ここにあらず」というコメントは、

上述の「受動的」であるという「はい」の側面が極端にネガティブに現われたとも思われる。

また「はい」についての「バカっぽい」や『「はい」『ええ』両方ある方が的確・ものを学んでいる感じ』というコメントも、前述の「はい」の側面が現われたものだとも考えられる。

「ええ」についての「一家言あり」、「続きがありそう」、「プロ意識」、「自信」「頭が良くて何でもわかっている」、「命令されて動くタイプでない」というコメントは、二宮・金山の「ええ」の考察（2006）と関連付けられる。すなわち、「ええ」には話者の判断に基づく相手への意見が表明されているのであって、単なる応答表現ではなく、主体的かつ主張の強い表現である。相手の発話を敬意を持って受け止める「はい」が自らの意見を伴わない受動的な表現であるのに対し、「ええ」は積極的に自己の考え・スタンス・主張を前面に押し出すと言える。このことは金山・二宮(2007、2009)の調査でも裏付けられている。

また被験者 A は「実力があって顔がよくて落ち着いた年齢に達していないと『ええ』は不適切だ」という自分なりの「ええ」に対するイメージを持っている。

次に「ええ」についての「既知の情報」というコメントは、二宮・金山（2006）の考察と関連づけられる。筆者らは「はい」と「ええ」の違いには、話者間が共有する情報の度合いが深く関与しており、共有の度合いが高いほど「ええ」の使用許容度は高まると考察した。

「ええ」しか使わなかったと仮定した場合、「エリート同士の会話」、「視聴者は蚊帳の外」というコメントが出てきた。これは、会話をしている二人の間でのみ情報が共有されているという状況・雰囲気を作り出されてしまっているからだと考えられる。被験者 A は、小谷キャスターと与謝野前大臣二人の間でのみ完結していて、視聴者をとりこんでいないように感じたと言っていた。これは「参加・強調」、「同意」、「共鳴」という「ええ」の側面がネガティブに現われたものだと思われる。

また、はっきりした「はい」は同意であり、ささやく「はい」はあいづちであるとコメントがあり、声の大きさにより機能が異なるという意識があるということもうかがえた。

2) 被験者 B

「終わりたい時」に「はい」を使うというコメントがあったが、これは、前述した三者共通の「はい」のキーワードである「転換」に類する機能であると考えられる。これは、McGloin（1997）の「談話・場面を進行させる」という「はい」の機能を表していると考えられる。

また「（江崎アナウンサーは）視聴者に向けても『ええ』を使っている」というコメントが見られた。二宮・金山（2006）は、「ええ」が使用可能になる場合、その使用者は単なる情報の受け取り手ではなく、情報の共有者であると分析した。McGloin（1997）も「ええ」の機能を“participant alignment”（14）（参加・協調）と説明している。視聴者に向けて「ええ」を使うことにより、アナウンサーと視聴者の間に料理の作り方の情報が共

有されているという状況・雰囲気を作り出しており、それが5-1（三者共通）で述べた「ええ」の「カジュアル」「フレンドリー」「アットホーム」「あたたかい」などのキーワードに結びつくと考えられる。

「ええ」のみだったという仮定の質問については、「面白みが出ない」というコメントがあったが、これは前述した三者共通の「バリエーションを意識」して応答表現を使うことが適切であるというコメントと同様だと考えられる。また、「どちらかだけだと変・しつこい・話しづらい」というコメントも、三者共通の「バリエーションが必要である」というコメントと同様であると考えられる。

3) 被験者 C

「ええ」のみだったという仮定については、「相手がいつまでも話し続けそう」というコメントをしたが、これは「ええ」の「同意応答」「共鳴応答」の機能がマイナスに現われてしまった結果だと考えられる。

また、小谷キャスターは始めは大きい声で「はい」と言っていたが、相手が話しやすくするために、次第に小さい声になったと指摘した。被験者 A と同様、声の大きさと機能が異なるという意識があるということが、被験者 C からもうかがえた。

なお、被験者 C は「ええ」を「女性語のイメージ」として捉えていた。

5：調査結果のまとめ及び「ええ」の機能についての再考察

以上の調査結果から、「はい」「ええ」の使い分けに関する意識、および「ええ」の機能について再確認されたこと、また新たに浮かび上がってきたことについてまとめる。

5-1：再確認されたこと

先行研究で言われている一般的な「はい」「ええ」の機能が確認された。

- 1) 「はい」には、フォーマルで丁寧、「談話設立・維持・進行」の機能、「ええ」に「同意・共感」の機能があると認識されている。

また、筆者らのこれまでの考察と重なる回答が得られた。

- 1) 金山・二宮（2007）が指摘したように、「はい」「ええ」の使い分けにおける意識には、個人差がある。例えば、「同意・共感」の機能を、被験者 A は「はい」に見出しているが、被験者 B と C は「ええ」に見出している。
- 2) 金山・二宮（2007）は、「ええ」は、個々の意識によってその使い方・捉え方が異なるということを指摘した。今回の調査では被験者 3 名の「ええ」に対するイメージや捉え方には、共通の部分もあるが、異なる部分もあることがわかった。
- 3) 二宮・金山（2006）は、「ええ」には話者の判断に基づく相手への意見が表明されているのであって、単なる応答表現ではなく、主体的かつ主張の強い表現であると分析した。さらに、相手の発話を敬意を持って受け止める「はい」が自らの意見を伴わない受動的な表現であるのに対し、「ええ」は積極的に自己の考え・スタンス・主張を前面に押し出すと考察した。今回の調査では、この考察と重なる回

答が得られた。

- 4) 二宮・金山(2006)は「はい」と「ええ」の違いには、話者間が共有する情報の度合いが深く関与しており、共有の度合いが高いほど「ええ」の使用許容度は高まると考察した。今回の調査では、この考察と重なる回答が見られた。
- 5) 二宮・金山(2006)は、「ええ」は使い方によってネガティブにもポジティブにもなり得る可能性がある」と指摘した。さらに金山・二宮(2007)のアンケート調査から得たコメントの中にも、「ええ」は「威圧的」、「気取っている」、「自分を装っている感じ」といったコメントがあり、「ええ」には否定的なイメージがあることがわかった。一方「はい」についても、『はい』ばかりだと話をちゃんときいているか不信感を与える、『はい』ばかりだと機械的だ」というコメントも見られた。今回の調査でも、「ええ」のみだったら／「はい」のみだったら、という質問を設定したことにより、「はい」「ええ」の持つマイナスの面が浮き彫りになった。これは、「はい」／「ええ」どちらかだけしか使っていなかったらという質問に対する「どちらかだけだと、変・しつこい・話しにくい」、「『はい』だけだと、楽しさが出ない・堅苦しい」、「『ええ』だけだと区切りがわからない、だらける」等の回答に表れている。

5-2：新たに見出されたこと

被験者は3名とも、「はい」「ええ」を適宜織り交ぜて使用することが適切で自然だと指摘している。これは、先行研究および筆者らのこれまでの調査結果からは見出されなかった新しい点である。このことは、上記5)で述べたように、「はい」のみ／「ええ」のみの応答詞が使われた場合、その応答詞の持つ機能がマイナスに働く結果になってしまうと考察できるのではないだろうか。

また、被験者Aの『ええ』のみだったらエリート同士の会話で、視聴者は蚊帳の外と言う気がする」と言うコメントにも「ええ」の機能がマイナスに働いていることが指摘されていると思われる。「ええ」は、話者同士の間においては、「同意・共感」の機能として働くが、同時に話者同士のみの領域を作り、境界線を引いて、他を疎外することもあると示唆されているのではないか。

6：今後の課題

本研究は、筆者らのこれまでの考察結果を裏付けると同時に、今までの先行研究では指摘されていなかった「ええ」の特徴を浮かび上がらせることができた。しかしながら、被験者が3人のみと限られており一般化はできないため、今後データ数を増やすことにより「ええ」の機能をさらに明らかにしていきたい。また、今回は被験者が女性の日本語教師に限られていたため、今回は、さらに多様なバックグラウンドや性別を考慮した調査を行いたい。

前回のアンケート調査では、「はい」「ええ」の使い分けの要因に話者の「気持ち」が大きく関与していると結論づけた。が、今回は「気持ち」に関わるコメントはあまり得られなかった。これは前回はドラマチックなストーリー展開のいくつかの漫画を媒体と

して使用したためであると思われる。今後は、様々な場面・媒体に広げて調査していくことで、さらに「ええ」の側面を掘り下げて考察したい。

今回新たに、応答詞の使用においてはバリエーションが必要であるということが指摘された。この点をさらに考察していきたい。たとえば、同じ被験者が違う相手(年齢、上下関係、性別等が異なる)と話したときに、「はい」「ええ」を使う割合が、どのように変化するかを観察し、被験者にその使用意図について聞き取るような調査が考えられる。

参考文献

- 金山泰子・二宮理佳(2007)『『はい』『ええ』の使い分けに関する意識調査』
「ICU 日本語教育研究 3」 pp.3-31 国際基督教大学日本語教育研究センター
- 金山泰子・二宮理佳(2009)『『はい』『ええ』の使い分けに関する調査—漫画を使用したアンケートを通して—』
「ICU 日本語教育研究 5」 pp.19-44 国際基督教大学日本語教育研究センター
- 北川千里(1977)『『はい』と『ええ』』『日本語教育』33号 pp.65-72 日本語教育学会
- 阪本俊夫(2001)「現代の社会関係と敬語の可能性」『月刊言語』11月 pp.34-42 大修館
- 富樫純一(2002)『『はい』と『うん』の関係をめぐって』定信利之編『「うん」と「そう」の言語学』 pp.127-157 ひつじ書房
- 日向茂男(1979)「談話における『はい』と『ええ』の機能について」『国立国語研究所報告』65号 pp.215-229 国立国語研究所
- 二宮理佳・金山泰子(2006)『『ええ』の機能についての一考察—『はい』との比較を通して—』
「ICU 日本語教育研究 2」 pp.51-63 国際基督教大学日本語教育研究センター
- 二宮理佳・金山泰子(2008)「初級教科書に現われる『ええ』についての調査報告—初級における応答表現指導についての一考察—」
「ICU 日本語教育研究 4」 pp.39-57 国際基督教大学日本語教育研究センター
- McGloin, Naomi H. (1991) Hai and Ee : An Interactional Analysis. *Japanese/Korean Linguistics*.

資料 1

「はい」と「ええ」についてのアンケート

国際基督教大学 日本語教育課程

二宮理佳 金山泰子

私達は、日本語の「はい」と「ええ」について研究しています。今回は日本語母語話者がどのようにこの2つの表現の違いを認識しているかを探るため、このアンケートとインタビューをお願いすることにしました。1時間程度かかるかと思いますが、どうぞよろしくお願い申し上げます。個人情報については責任を持って管理致します。

●年齢 20代 30代 40代 50代 60代 ●性別 男 女

●職業 会社員 教員（科目： ） 自営業 その他（ ）

●出生地 _____ ●育った場所（例：千葉県船橋市） _____

**

まず3つのテレビ番組の一部分（各5分程度）をご覧ください。その後で、以下の質問をお聞きいたします。

1 「ワールドビジネスサテライト」

1. 小谷キャスターは会話の中で「はい」「ええ」「うん」を使っています。この人はこの三つの表現を使い分けていると思いますか。

() はい () いいえ

2. どのように使い分けていると思いますか。または、「はい」「ええ」「うん」それぞれから、あなたが受ける印象を教えてください。

3. 以下の場合、どのような印象を受けると思いますか。

A) もしこのキャスターが「はい」しか使っていなかったら：

B) もしこのキャスターが「ええ」しか使っていなかったら：

2 「今日の料理」

1. このアナウンサーは会話の中で「はい」と「ええ」を使っています。この人はこの2つの表現を使い分けていると思いますか。

() はい () いいえ

2. どのように使い分けていると思いますか。または、「はい」「ええ」それぞれから、あなたが受ける印象を教えてください。

3. 以下の場合、どのような印象を受けると思いますか。

A) もしこのアナウンサーが「はい」しか使っていなかったら：

B) もしこのアナウンサーが「ええ」しか使っていなかったら：

2 「ナイナイ+」

1. 玉木宏は会話の中で「はい」と「ええ」を使っています。この人はこの2つの表現を使い分けていると思いますか。

() はい () いいえ

2. どのように使い分けていると思いますか。または、「はい」「ええ」それぞれから、あなたが受ける印象を教えてください。

3. 以下の場合、どのような印象を受けると思いますか。

A) もし彼が「はい」しか使っていなかったら：

B) もし彼が「ええ」しか使っていなかったら：

★ご協力ありがとうございました★

資料２ テレビ番組のSCRIPT

テレビ映像１：「ワールドビジネスサテライト」（2009年5月1日 東京12チャンネル）

K：小宮キャスター Y：与謝野前大臣 <>：筆者らによる状況説明

K：これ、効果が出てくるのはいつ頃というふうを考えてよろしいんでしょうか。

Y：まー、あの、予算が5月いっぱいまで仮にとおったとしますと（K：はい）、7月くらいからですね。

K：7月くらいですか（Y：はい）。えー、あの、そもそも与謝野さんはですね、財政規律派でいらした。で、なぜ、これだけの、その、財政にすると、大きいんですよね？ 何の指標があつてそういうふう考えたんですか？

Y：昨年（2008年）の10、11、12月の日本の経済の状態がわかった（K：はい）。これを年率に換算しますと、だいたいマイナス

12%ぐらいになってしまうと（K：はい）。これは、あの、マイナス12%になりますと、中小企業の倒産が非常に増

える（K：はい）。それから失業者がものごとくたくさん出る（K：はい）。こういう倒産とか失業とかという社会的悲劇が起きてくる。こういう社会的悲劇ってものは、あのう、非常に（K：あの一）ほつとくと（K：ええ）、あとで高くつく。高くついてしまう。（K：うん）社会的コストが（K：うん）。ですかなるべくそういう社会的悲劇を小さくする（K：はい）。で、そのためには、その（K：うん）財政が始動する（K：うん）時期が来た（K：うん）と。これは国際的な要請でもあった（K：うん）わけですね。

K：まーそうですね（話を続けそうになるが遮られる感じ）

Y：各国とも

K：えー、財政始動して（話を続けそうになるが遮られる感じ）

Y：ですから国内の問題として（K：あの一）財政主導して（K：うん）

Y：経済を立て直すってことが国内経済の上でも必要だったし（K：うんうん）、国際経済の上でも日本一国が一貧

しい（K：んふっ）経済となると他も影響を受けるから（K：んー）そういう意味では国際貢献の意味からも経済をあ

る程度（K：うん）立て直さなければいけないと

K：だからあれですね。あの後与謝野さんと各国首脳陣の方とお会いになられましたけども、これだけ財政出動したか

ら、と胸をはって行かれたんじゃないですか？

Y：いや、それでもあのう、今回の財政出動の15兆（K：ええ、これですね？）となっていますが（K：ええ15兆でえー）

これ、ずっとほつとくとだーっと下がっちゃうんですが（K：ええ）

Y：まあ

K：ここで15兆 <割り込む>

Y：このカーブをですね

K：はい！<割り込みやめて、元気に>

Y：ちょっとこうフラットに（K：うん）、この差は2%ぐらい

K：2%ぐらいにする

Y：マイナス幅が2%小さくなる（K：うん）。政府の内閣府の経済見通しで（K：うん）今年度はマイナス3.3%（K：はい）日銀の見通しで3.1%（K：うん）おおそマイナス3%ぐらいの経済（K：うん）だと

K：15兆うってもこれがこー上がることはないですね？

Y：ないですね。

K：と。こーするためには、どう、どうすればよろしいんでしょう？

Y：これはね（K：ええ）世界経済の回復とともにもどってくるわけで（K：うん）日本の経済ってのは、日本の経済と

して独立して存在するわけではなくて（K：はい）、やっぱり、世界の経済の中の日本ですから（K：うん）、世界

全体が上向きになってこないと日本も上向きにならない。でもその世界全体が上向きになる間は財政出動で（K：

うん）つないでいく（K：はい）。と、それも全体全部埋めるわけにはいかない。

K：いかないですね？

Y：ええ

K：それは無理ですね。

テレビ映像２：「今日の料理」（2009年8月 NHK）

E: 江崎アナウンサー K: 小林 (料理研究家)

E: それでは、まず、鮭マヨから教えていただきます。

K: はい。まずは、鮭マヨなんですが、切り身魚の代表と言えば鮭だと思うんですけど (E:はい)、今日は生鮭を使っています (ええ)。生鮭は塩をしていないので、あの、要するにアレンジがしやすいですね (E:ええ)。

E: 切り身魚を使うときの、ポイントって、どのようなことでしょうか。

K: はい、あの、ポイントは二つあるんですけど、ひとつはまず、調理前に10分ぐらいおいておくこと、そうすると、あの、その分火の通りがよくなって (E:ええ)、生焼け防止になります。

E: なるほど、ほかにはありますか。

K: ほかに、表面についている水滴が臭いのもとなので、これをペーパータオルでふいていきます。

E: はあ～

K: やさしく、このようにふいてください。

E: ええ、洗ってはいけないうですか。

K: はい、洗うと、あの、魚のうまみも逃げてしまいますし、水っぽくなってしまいますね。

E: はあ、ん～、水気をよくふきとってください。

K: はい、そして、鮭マヨに使う鮭は、4等分に切っていきます。

E: 食べやすい大きさということですね。

K: そうですね。はい。そして、これをボールの中に入れます。

E: はい、ボールには二切れ分入っていますね。

K: はい、そこに塩こしょうします。

E: 下味はしっかりつけたほうがいいですか。

K: はい。塩こしょうしたほうが、あの、味がぼんやりしないですね。

E: はい。塩こさじ3分の1、こしょう少々です。あの、甘塩の鮭でもできますか。こちら。

K: はい、あの甘塩の鮭でももちろんできるんですけど (E:はい)、あの、その場合はこしょうだけにしてください。

E: 塩を入れないということですね。

K: はい (E:はい)。そして、えー、溶き卵

E: 2分の1個分です。

K: 片栗粉 (E:ん～)、これが入ります。

E: 大さじ2杯半ですね。片栗粉... 小麦粉かなとおもったんですが (K:はい)、片栗粉のほうが (K:はい)、よりいいんですか。

K: そうですね。片栗粉のほうが揚げたときに、あの、色がつきづらいので、あの、揚げやすいですね。

E: あ、そうなんですか。

K: はい、卵が入ることによって、少し衣にボリュームが出てくれるんですね。

E: はい、そして、また、片栗粉をつけると...

K: そうなんですね (E:はい)、面倒なようなんですが、こうすることによって、あの、片栗粉が表面にまぶさって、あの、ソースがからみやすくなるんです。

E: あ、これから、あの、マヨネーズソースと合わせていくわけですけども (K:そうですね)、あ、ソースと合わせる時のことを考えて (K:はい)、片栗粉をここでまぶすと...

K: はい (E:へえ～)。あとは魚料理はどうしてもボリュームが出にくいというふうに、あの、思っている方も多いと思うんですが、こうすることによって、あの、鮭に衣感が出てボリュームが出てくるんですね。

E: あーなるほど (K:はい)

たしかにボリュームも、たしかに大事ですもんね。

K: 大事ですね。

E: そして、火を通していきます。

K: フライパンの中には、サラダ油が大さじ4杯入っています。

E: けっこう多いですね。

K: そうですね。どうしても粉がまぶさっているの、えっと、その分、油をすってしまうんですね。

E: あーなるほど、もう、これ、油は少ないよりも多めと思っておいたほうがいいですね。

揚げ焼きという感じですね。

K: そうですね。ま、多めと言っても (E:ええ)、揚げ焼きした後に粉の処理がたいへんなわけではないんですね。

E: あ、たしかに、あの、揚げるというよりも揚げ焼きですから、それほど、こう、手間ではないかな、という気がします。このように揚げ焼きにしていこうほうがいいんですか。

K: はい、あの、鮭の癖が少しやわらぐんですね (E:はあ～)。なので、多めの油で調理してあげると、衣も食べやすいと思います (E:はあ～)。

E: この一工夫ですね。

K: はい、そして、あの、表面がカリッとしてきたらひっくり返していきます。

E: はい。焼き目はそれほど... カリッとしたらという感じですね。

K: そうですね。あの合計でだいたい画面3分ぐらい揚げ焼きしていただければ中まで火が通ると思います。

E: はい。それでは、マヨネーズソース、あえていくマヨネーズソースですけども、こちらです。

K: はい。あの、マヨネーズソースはよく海老マヨに使うと思うんですけども、マヨネーズだけでなく、甘味を

少し足したほうがおいしいのでお砂糖を加えます。

E: ふーん。マヨネーズ大さじ5、砂糖大さじ2です。

K: はい。そして、塩とこしょう。

E: はい。塩こしょうですね。少々。

K: はい。そして、少しさっぱりさせるために、レモン汁を加えます。

E: レモン汁、大さじ2分の1。はあ〜レモン汁、これ、入れたほうがいいんですね。

K: はい。レモン汁が入ったほうがさっぱりするんですけども、魚のやはりくせをちょっとやわらげてくれるんですね。

E: ここでまた、子供たち、食べやすくなるということがありますね。

K: そうですね。

E: マヨネーズ、子供たちも好きな味ですし (K: そうですね)、大人も好きな方多いのではないのでしょうか。

K: そうですね。男性も好きですよ。

E: はい。そして、こちら、揚げ焼きにした鮭がありますね。

K: はい。揚げ焼きにした鮭を入れていきます。

E: はい。あ、少し、こう、こんがりと言いますか、焼き目がつくぐらいでいいんですね。

K: はい。このように手でさわれるぐらい (E: はい) 粗熱をとってあげたほうが、マヨネーズを混ぜたときに分離せずにすむんですね。

E: は〜、粗熱をとってからソースをあえる (K: はい)。

K: はい、失礼します。

E: このマヨネーズとレモン汁とお砂糖の味、あ〜、どのようなお味がするのを楽しみます。

K: はい。

E: はい、お皿にはお野菜がたっぷりです。

K: そうですね。どうしても魚だけだとボリュームが出づらいというのと、あと親心としては野菜もたっぷり食べてほしいというのがあると思うんですね (E: ええ)。それで、今回はレタスの細切りとパプリカを下にしています。

E: はい。レタス2、3枚とジャンボピーマン、赤いジャンボピーマンですね、4分の1個です。

K: はい。その上に、鮭マヨを盛り付けていきます。

E: ん〜、このマヨネーズソースがレタスやジャンボピーマンにも合いそうですね。

K: そうなんです。あの、上に盛り付けることによって、あの、レタスやパプリカが、ジャンボピーマンが (E: はい) あの、添え物でなくて、あの、おかずの一品、一品ではないですね、おかずの中に一緒にこう、取り込んでくれるというか (E: はあ〜)、あの、添え物で終わらないというか (E: ええ)。

E: 鮭マヨでなくても、例えば、どのようなお魚が合いますか。

K: えーとですね (E: はい)、例えば今の時期ですと、サワラやカジキなんかもおいしいと思います (E: はあ〜)。あとは切り身魚になれてきて (E: ええ) マスターした人は、あのアジの切り身は (E: はあ)、アジの三枚おろしにしたものなどで代用するといいかと思いますね。

E: 最後に残ったマヨネーズソースをたっぷりかけて、わあ、ほんとうにおいしいそう。トロンとしていますね。

K: で、完成です。

E: できあがりしました (K: はい)。鮭マヨです。ん〜、ごはんがすすみそうですね。

K: そうですね (E: ねえ)。ごはんにも合いますし、パンにも合いますね。

E: あ〜、ほんとに、子供たちにも食べやすいですね。さあ、どのようなお味がするのでしょうか。私、いただきたいと思います。

K: はい、どうぞ。

E: どのようなお味がするのかな... いただきます... ん〜、おいしいです。

K: おいしいですか。ありがとうございます。

E: 魚がとっても食べやすくなりますね。このマヨネーズ味ですと。

K: そうですね。

E: ええ！

K: あ、鮭のいいところはもう一つあって (E: はい)、ふっくらと仕上がるので (E: あっ)、すごく食べやすいんですね。

E: たしかに、ほんとにふっくらしてますし、レモン汁が少し入っていることによって、さっぱりとした (K: そうですね) 味になりました。

テレビ映像3：「ナイナイプラス」(2009年8月4日 日本テレビ)

O: 岡村 T: 玉木宏 Y: 矢部

O: 台本と違って (T: うん) もう確実にしっかりたたきこんでいくの。

T: もちろん、せりふはもう完全に入れていって

O: 完全に？

T: はい (へえ)。いえ、でも、そうじゃないですか。

O：読むけど、その、切羽つまった状態でないと（T：はいはい）覚えられへんの。
T：うーん
O：あわてる、あわてる、現場で。（観客笑）直前に入れてるから。なんていうのかな、動けないの。
T：ははは
O：なんか、その、食べるシーンとかあってみても（T：はい）、せりふが、もう、あの、ギリギリやから、（T：はい？ええ？）食べ、ごはんを食べてくださいって言われても、箸が動かへんの。せりふを言ってしまうんかぎり
T：食べながらのシーンは、けっこう難しいですね。
O：あ、難しいねん、やっぱり。
T：うん、ええ、うん
O：そうやねんな、難しいよな
T：（ええ）、かむタイミングと飲み込むタイミングとか（O：そうそうそう）決めてないと、ある程度
O：せやねんな（T：ええ）。もう手とかどこへ持っていったらいいか、わからへんねん
T：ははは
O：そんな手、したことないやんみたいな
T：ああ、そう、不自然な（？）
O：いや、立ってるだけやねんけど、なんか手をどうしたらええかわからへんから、こう、なんか、こうなってるねん、手、難しいよね、手の位置とかも
T：いや、最初、そうでしたよ、僕も
O：そうやろ
T：ええ
O：わからへんねん、手
T：うん
O：あと、あと、ここ、こうこうこうや
Y：そんなしいひん、そんな、もう、おかしいて
O：おかしいよな
T：ええ、おかしいですね、はい
O：おかしいけど、こう、なんか固定しときたい
T：おさまってないとダメなんですね、たぶんね
O：そうそうそう、なんか
T：ぶらぶらして
O：おちつかへん
T：ええ
Y：考えすぎてまうねんな
T：わかりますね
O：そっかー、長台詞とかも、もうほな完璧に覚えて行くん
T：そうですね、長台詞こそ、もう最初に入ってないと（O：ああ）現場でどうしようもなくなっちゃう
O：どこでさ、そういうの練習してんの。家とかでやんの。
T：それは、家です。ばく、家族で今住んでるんですけど（O：ほーほー）ま、見られても、多分なんとも
O：何してんの！って言われへんの
T：ま、昔は
O：ひろし、何してんの！（全員笑）って言われへん？
Y：ま、ま、仕事、だいたいわかる、わかるやろ
T：んー
Y：ていうか、家族と住んでんねや
T：そうです、今は、ええ。
O：ほな、ええよね。長期ロケになっても洗濯とかしてくれるから
T：まあ、だから、洗濯は自分でわりとしますけどね
O：ああ、回す
T：はい
O：せんたく、好き。
T：せんたくして、バリッとかわくのがけっこう好きだったりして
O：ほーほーほー
T：ええ
O：バリッとかわく
T：バリッとかわく、ええ、まあ、バリッと、まあ、柔軟剤とか入れますけど
O：柔軟剤、入れるでしょ？
T：ええ
O：柔軟剤入ってるから、バリッしたら、ちょっと柔軟剤の意味ないやん
T：あんまり、バリッとするのもいやですけど
O：かったいなあ、このパンツ。バリバリやねんみたいな。

T: いやいやいや表現としてですよ
O: 表現
T: ええ、ええ
O: ハンガーにかける?ちゃんと
T: ちゃんと下からハンガーにかけますよ
O: 下から
T: ええ、首が伸びるの許せないんです
O: 首、ああ、ぼくも、ここ、こう折ってやる、首、だから (T: ええ) 伸びるように (T: ええ) してやるんやけど、おれ、いつも、この、こうなってるやん、ここを、こうやって、噛んで、んで、こうやって
T: 痛くないですか、ここ
O: 痛い痛い痛い、すごく痛い

資料3 インタビュー結果

被験者 A のインタビュー結果

1) WBS

質問1	「ええ」「はい」を使い分けしているか	WBSの小谷キャスターは、部分的に「はい」「ええ」を使い分けしている
質問2	「はい」「ええ」をどのように使い分けしているか、または受ける印象	小谷キャスターのはっきりした「はい」は同意、ささやく「はい」はあいづち。また、聞き手という役割を越えて、自分が話そうとしていたことに気づき、聞き手としての自覚がもどると「はい」にもどっている。さらに、時間を気にして、心ここにあらずのあいづちで「はい」を使っていた。「ええ」については一言あり、続きがありそうと感じる。また、既知の情報に使っている。
質問3	「はい」しか使っていなかったら	バカっぽい印象がある。さらに、視聴者の視点から見ると、「ちゃんと勉強してこい」という印象を受け、また、与謝野氏側から見れば「お前聞いてんのかよ」、「いつまで乙女(のつもり)だよ」という印象がある。
質問4	「ええ」しか使っていなかったら	頭が良くて何でもわかっているという印象を受ける。また「与謝野いらない」、「エリート同士の会話なので、視聴者は蚊帳の外」と感じる。
質問5	その他	この映像を見るまで小谷キャスターのことを知らなかった。

2) きょうの料理

質問1	「ええ」「はい」を使い分けしているか	江崎アナウンサーは、かなり意識的に使い分けしている。
質問2	「はい」「ええ」をどのように使い分けしているか、または受ける印象	「はい」は、説明、手順、動作の後、説明の前、料理を見せる前、事務的に使われている。また「ええ」はフレンドリー、カジュアル、若奥様、という印象がある。
質問3	「はい」しか使っていなかったら	「料理を作る気分にならない」、「怒られているよう」、「(江崎アナウンサーは) 覚える気がなさそう」。
質問4	「ええ」しか使っていなかったら	「区切りがわからない」、「だらける」。
質問5	その他	江崎アナウンサーのことは知らなかった。 「はい」「ええ」両方ある方が的確で、ものを学んでいる感じがする。

3) ナイナイ

質問1	「ええ」「はい」を使い分けしているか	玉木氏は、「はい」と「ええ」をはっきり使い分けしていない。また「はい」とも「ええ」ともつかない微妙な言い方のものがある。
質問2	「はい」「ええ」をどのように使い分けしているか、または受ける印象	「ええ」には、プロ意識、自信、あたたかい感じ、リズム、顔などの要素が重要だ。「ええ」が使える人物は、「顔がよく、実力があり、落ち着いた年齢に達している」。さらに、仮面ライダー系の俳優やアイドル系タレントには「ええ」は相応しくない。彼らはプロの俳優ではないから。

質問 3	「はい」しか使っていなかったら	変だが、もっと若ければ OK である。
質問 4	「ええ」しか使っていなかったら	「ええ」しか使っていないなくても、自然で雰囲気合っている、人から命令されて何かやるタイプの人ではなさそうなので「ええ」だけでも自然だ。「はい」を多く使う人は上から言われ慣れている人という印象がある。
質問 5	その他	玉木氏を良く知っている。彼の仕事、キャリア等も知っているうえで、彼の「ええ」の使い方には好感が持てた。その人に対する情報を持っているかで「ええ」から受ける印象が違ふ。 玉木氏は映画のインタビューや舞台挨拶だったら「はい」「ええ」の使い方が違うかもしれない。

被験者 A の「ええ」に対する意識		
「聞いています」「学んでいます」というときは「はい」を使う。 「ええ」は話している相手と自分を同じレベルに置きたいときに使う。「ええ」には自分を上げる意識が働く。 「ええ」は気取っている感じ、自分を装っている感じ。自分の感情や実感をこめて同意する場合は、上下関係を問わず「ええ」を使うことが多いような気がする。		

被験者 B のインタビュー結果

1) WBS

質問 1	「ええ」「はい」を使い分けしているか	意図して「はい」「ええ」を使い分けしている。
質問 2	「はい」「ええ」をどのように使い分けしているか、または受ける印象	最初は「はい」が多く、相手との距離感があるが、そのうち「ええ」に変化した。最初の「はい」は緊張している感じがした。さらに、相手が物大（与謝野馨前財務大臣）なので、嫌な感じにさせないために、またきちんと答えをもらうために「はい」を使用しているようだ。さらに「ええ」は、相手の話に対して「ええ、わかりますよ」と話を進めていくために使っている。
質問 3	「はい」しか使っていなかったら	相手との距離が変わらない。相手はしゃべりにくいという印象を受けるかもしれない。
質問 4	「ええ」しか使っていなかったら	近い感じがするが、相手によってはもっと丁寧な話に入ってほしいという人もいるかもしれない。
質問 5	その他	小谷キャスターを知っている。わりと男っぽい印象で、意識を持って男っぽくつつこんでいるようだ。また、小谷キャスターは「うん」を与謝野氏が話に詰まっているところで、話を引き出すために、また、「あまりおもしろくない話・内容のとき、『そこはつかえなくていいから、スムーズにしゃべれよ』という気持ち」で、さらに「（興味を持って）聞いているわけではないが、『とにかくしゃべってね』というとき」に使っている。

2) きょうの料理

質問 1	「ええ」「はい」を使い分けしているか	江崎アナウンサーは、使い分けはあるが、あまり意識せずに使っているようだ。
質問 2	「はい」「ええ」をどのように使い分けしているか、または受ける印象	「はい」は「勢いをつけるため」、「これから始めましょう」、「次に行きますよ」など、「転換」に使っていた。「ええ」は、「相手にスムーズに話してもらうため」、「リズムを与えてあげるため」。また、視聴者に向けて、「ええ」を使っていたが、これは「あなたもわかりますよね？」という使い方だ。また、自分の言ったことに対して「ええ」を使っている部分もあった
質問 3	「はい」しか使っていなかったら	「料理番組の楽しさが伝わらない」と回答した。
質問 4	「ええ」しか使っていなかったら	進めていく上で区切りがはっきりつかない、だらだらと流れる感じ。
質問 5	その他	江崎アナウンサーを知っており、以前何度か見たことがあるが、ニュース番組のときとは印象が違い、今日の料理では明るいイメージだという印象を持っている。

3) ナイナイ

質問 1	「ええ」「はい」を使い分けしているか	玉木氏は、「はい」「ええ」の使い分けを全然意識していないように見えた。
------	--------------------	-------------------------------------

質問 2	「はい」「ええ」をどのように使い分けているか、または受ける印象	玉木氏の「ええ」は相手の言っていることに対する返答として使われている。また、「うん」は自分の言ったことに対する確認として使われていると述べた。また、意味の違いは意識していないようだが、(応答詞の)バリエーションを意識して使い分けをしているようだ。
質問 3	「はい」しか使っていなかったら	番組が番組だけに軽さが出ない。
質問 4	「ええ」しか使っていなかったら	いいけど、それだけだと面白みが出ない。また軽い感じで話そうとしている意識があるかもしれない。
質問 5	その他	玉木氏を良く知っている。 玉木氏は「はい」を使うイメージだが、この番組を見てみると、意外と適当に話すと思った。かったる感じ、軽い感じで話そうとしている意識があるのかもしれない。

被験者 B の「ええ」に対する意識

あまり意識していないが、意識するときもあるかもしれない。

「ええ」はあまりカジュアルすぎではいけない人でも少し親しみをもって話したいとき。目上の同僚には意識して「ええ」を使う。「はい」も使うが、「うん」ではないという意識がある。「うん」も言っているが、まずいなと思う。「はい」を意識して使う人はかなりトップの人や初めて会う人「はい」だけは△。バラエティがないのもちよっと。「ええ」は前は使わなかった(若いとき)。全て「ええ」だったら気取っているイメージがある。

被験者 C のインタビュー結果

1) WBS

質問 1	「ええ」「はい」を使い分けているか	はっきり意識していないが、「はい」と「ええ」を使い分けている。
質問 2	「はい」「ええ」をどのように使い分けているか、または受ける印象	最初「はい」から入り、次第に「ええ」や「うん」も入ってきた。相手の答え・意見を聞くときに「はい」を使用している。「改まった場であるから、また敬意を示すべき相手だから」。 終わりたいときに「はい」を使う。また、始めは大きい声の「はい」だったが、相手が話しやすくなるようにそのうち小さい声の「はい」になっていたのではないかと。 しばらく「うん、うん」が続いて、「はい」(フォーマルを示すもの)にもどる。「ええ」は同意かもしれない。
質問 3	「はい」しか使っていなかったら	固すぎて、相手が話しにくいかも。しつこい感じになる。だから小谷さんもだんだん小さい声の「はい」にしていた。
質問 4	「ええ」しか使っていなかったら	そんなに違和感はないかもしれないが、やっぱりしつこいかもしれない。また、相手がいつまでも話を続けそう。
質問 5	その他	小谷さんを見たことがあり、きちんと伝えているという印象だ。いろいろなことをしながら(例 書類を見ながら)またコントロールしながら聞いているときに「はい」を使っていた。 「はい」か「ええ」どちらかだけなら、変だし、しつこいし、話しにくい。

2) きょうの料理

質問 1	「ええ」「はい」を使い分けているか	意識的かどうかかわからないが、使い分けはしている。
質問 2	「はい」「ええ」をどのように使い分けているか、または受ける印象	最初は「はい」から始まって、転換のとき、話題が変わるときにも「はい」を使っている。また、「ええ」は、「聞いていますよというサイン」である。
質問 3	「はい」しか使っていなかったら	固すぎる、主婦が見る番組だから「ええ」を入れたほうがアットホームであたたかい印象がある。 料理の先生は「はい」のみだったが、これは問題ない。なぜなら、緊張していたかもしれないし、招かれたゲストだから。
質問 4	「ええ」しか使っていなかったら	「ええ」のみだと話を進めたり、転換する機能がない。 NHK だから、「ええ」だけだと改まった感じが出ない。
質問 5	その他	以前に江崎アナウンサーを見たことがあり、明るく、やわらかいイメージを持っている。WBS に比べると、この料理番組では、「はい」も「ええ」もどちらもそんなに頻繁に使っていなかったため、どちらかだけになってもそんなに変な感じはしない。

3) ナイナイ

質問 1	「ええ」「はい」を使い分けしているか	「はい」も「ええ」も使い分けを意識していないと答えた。
質問 2	「はい」「ええ」をどのように使い分けしているか、または受ける印象	玉木氏はゲストとして来たから「はい」から始めようという気持ちがあるようだ。また、確認として「はい」を使っていた。「ええ」を基本的に女性語として捉えていたが、玉木氏のように低い声だと男性でも違和感がない。
質問 3	「はい」しか使っていなかったら	堅苦しい感じがする。
質問 4	「ええ」しか使っていなかったら	最初から「ええ」だけしか使っていなかったら、ちょっと…。
質問 5	その他	玉木氏を知っており、明るくトークが面白いというイメージがある。

被験者 C の「ええ」に対する意識	
<p>営業で話を聞いている人が使う。友達同士は使わない。 ふつうは使っているのかなあ</p> <p>電話で話を聞いている自分の母（ある程度親しい人と話している）</p> <p>父：使っている感じはするが、あまりそういう場にいたことがない</p> <p>男の人の場合：女の人よりもっと改まった場／状態で使うイメージ。ちゃんと話を聞いてあげなくてはいけない時に使</p> <p>うイメージがある。例：仕事／年上の親戚</p> <p>女の人の場合：男の人のようなイメージはなく（もっと頻繁に使っている感じ）。でも自分はあまり使わない。母親世代</p> <p>とは感覚が違うのかも</p> <p>自分自身はあまり意識していないが、あまり使っていない気がする。</p> <p>「うん、うん」を上の人に使ってしまった。</p>	

A Study of the Difference in the Usage of “hai” and “ee” through an interview survey using T.V. programs

Rica NINOMIYA, Yasuko KANAYAMA

This paper examined the difference in the usage of “hai” and “ee” and the function of “ee” through an interview survey of three subjects using T.V. programs.

The results are as follows. The subjects recognize that “hai” has the function of maintaining a high level of formality and establishing and developing a conversation, and that “ee” has the function of showing agreement and empathy. Further, the subjects recognize that the function of “ee” as a response that actively expresses the speaker’s opinion and as a response to shared information among the speakers.

We confirm that the recognition of the function of “ee” differs with person, and that the function of “hai” and “ee” works negatively if only one is used. This can be seen from the subjects’ comments as follows. If only “hai” is used, it would be “too formal,” “too serious,” and “unapproachable.” If “ee” is used exclusively, it would be “hard to see the end of a topic,” “annoying,” and “it will let a speaker talk endlessly.”

Further, all the subjects pointed out that it is natural and appropriate to use both “hai” and “ee” in a conversation. This has been indicated neither in previous studies nor in our previous surveys.